

週報

国際ロータリー・テーマ

夢をかたちに



Vol.42 第2075回例会

2009.5.7

今年度会長テーマ

(あい)に感謝 そして 実践しよう
ロータリーの志魂(こころ)

■司会：
吉川例会運営委員



■点鐘：町田会長

■合唱：ロータリーソング
「奉仕の理想」

◆ソングリーダー：
村田会員



■お客様紹介：野澤パスト会長



◆ゲスト：
留学生 川野辺麻利様



◆ゲスト：
第43期青少年交換留学生
(現ローテックス)
中村瑛美様



会長報告

町田会長



ロータリーに入ったとき、本音は例会場を出てから空にはけ、と言われましたが、これは人間社会においてはケースバイケースで本音と建前がありますので、よく理解できました。先月行われました分区協議会で櫻井ガバナーの本音論と私の建前論で議論しましたが、櫻井ガバナーの仰るとおり、あくまで会員と会員の摩擦を考えることではなく、ロータリーについては本音で語るべきだと今は思っています。櫻井ガバナーには感謝しているところであります。

しかし、入会した時から十数年間、ロータリーにNOはないと先輩会員によく言われてきました。今でもよく聞かれる言葉であります。この言葉は今ひとつよく理解できないところがございます。一体、いつから言われるようになったのでしょうか。何が根拠で言われることになったのでしょうか。ロータリークラブの事業参加は決して強制されるものではないはずであると考えております。そして、自発的であるべきであると私は思っています。

■例会日／毎週木曜日 12:30～13:30

■例会場／八坂神社 社務所

〒189-0013 東京都東村山市栄町3-35-1

■クラブ管理委員会／高橋 眞 田中 重義

■事務所／〒189-0013

東京都東村山市栄町3-5-1ハイツむさしの101
TEL 042-393-7500

例えばもし、ロータリーにはNOはない、この言葉が事実であれば、例会の出席率は創立以来20数年間地区大会における出席優秀クラブ表彰が欠かすことなく続いてきた東村山ロータリークラブの記録は途絶えることはなかったのではないかと思います。その理由は、気持ちはあるが出席できないものはできないし、これは個人によって様々で、やむ得ない事情がある事であると思うのであります。しかし、例会出席はロータリーの実践哲学の基本であります。ロータリー運動を成立させることの第一歩の必要条件であります。この事は皆さんはよく存じていらっしゃる事ですが、例会出席はロータリアンの特権であると同時に重要な義務であるとされております。クラブ定款第9条第1節には各会員は本クラブの例会に出席するべきものとする。会員が中途退席した時、例会に出席したものとみなされるには、例会に充当された時間の少なくとも60%に出席するか、または会合出席中に不意にその場を去らなければならなくなった場合、その後、その行為が妥当であるとクラブ理事会が認める理由を提示するか、または次のような方法で欠席をメイクアップしなければならない。メイクアップは本クラブ例会の時の前後14日間と明記されています。

ですから、出席、欠席の判断は出席委員会ではなく最終的にはクラブ理事会にあると言うことになるかと解釈できると考えます。

米山梅吉さん語録に、ロータリー例会は人生の道場である。さらに、仕事に支障をきたさない範囲で出席するという理屈は通りません。むしろ安心して例会に出席できるように、環境を整備して義務として例会出席し、ここで生じた仕事のロスタイムを憂うのではなく、例会に出席してロータリー運動を理解、実践することが真のロータリアンと単なるロータリークラブの会員との差が証明されるでしょう、と述べております。私は真のロータリアンになりたいと思っておりますが、日本には大変都合の良いことわざがございます。

思うは易し行うのは難し

です。また、将来の不確定なことを言って明日のことを言うと鬼が笑う

ということわざが御座います。鬼に笑われるのはまだ愛嬌がありますが、人様に笑われるのは非常に恥ずかしい思いに駆られることではなかろうかと思うところで御座います。

ロータリーの倫理訓を復唱します。

- ①真実かどうか
- ②みんなに公平か
- ③好意と友情を深めるか
- ④みんなのためになるかどうか

以上で会長あいさつと致します。ありがとうございました。以上で会長あいさつと致します。ありがとうございました。

■ 幹事報告

相羽幹事



■ ガバナー事務所：

- ・納めの会の案内について
2009年6月30日(火) 14:00~19:00
於 ホテルメトロポリタンエドモンド

- ・ロータリー・センター・ホストエリア・セミナー及び第7回ロータリー・センター年次セミナー並びに第6期世界平和フェローの修了を祝う会開催の案内について
2009年6月6日(土)
9:30~登録開始 10:00~
於 国際基督教大学

■ 青少年育成委員会：

- 中学生職場体験報告書作成のお願いについて
2008~09年度地区協議会部門別協議会(社会奉仕委員会)
地区青少年育成委員会会議報告の受理
2008~09年度における中学生職場体験についての報告をすること

■ 回覧：

- 熊本グリーンロータリークラブ発行
「ロータリー情報集」購入希望者について
(1冊 ¥1500)

■出席報告

石山例会運営委員



| 在籍会員数 | 出席 | 免除 | 欠席 | 出席率 |
|-------|----|----|----|-------|
| 41 | 32 | 1 | 8 | 78.95 |

■前々回メイクアップ修正後前々会欠席：4名

■前々回出席率メイクアップ修正後：89.74%

■前々会メイクアップ者：

石山会員：武蔵府中RC

熊木会員：所沢RC

日時会員：福生RC

野崎(征)会員：東大和RC

漆原会員：地区協議会

戸澤会員：福生RC

◆令夫人誕生祝月：
木下会員



◆樺澤会員：花も嵐もの50年。お陰さまで5月1日金婚式になりました。

◆神崎会員：中村瑛美さん、本日はお忙しいところ、我々の為に卓話をして頂くこと、大変ありがとうございます。

◆野澤会員：青少年交換留学生、中村瑛美さん、ようこそ。インドの話、楽しみにしております。

本日のニコニコ合計： 30,000円
累 計： 1,523,864円

■ニコニコBOX

野村クラブ管理委員

◆ご結婚祝月：

木下会員、野澤会員

樺澤会員、相羽会員

吉川会員



◆会員誕生祝月：

高橋(眞)会員



■委員長報告

■高橋(眞)次年度幹事



本日5月7日、18:30より所沢市久米の「野老」で次年度委員長会議を開催いたしますので、次年度の各委員長さんの全員出席をよろしくお願い致します。

来年度のクラブ概況の作成にあたり、全会員の写真を撮りますので、ご協力をお願い致します。

5月14日、5月21日の例会日に行います。

■卓話

■卓話者紹介：
神崎ロータリー財団
委員長



■卓話者：
第43期青少年交換留学生
中村瑛美様



～経験は宝なり～ インド留学で得たたくさんの事

皆さんこんにちは。国際ロータリー青少年交換プログラムを通してインドに親善大使として派遣させていただきました、43期インド派遣の中村瑛美と申します。この度、インドで経験してきた事をお話させていただく機会をいただき、うれしく思います。

私が高校2年生の8月より、多くの民族や宗教、人種、言語、階級が共存する国であるインドに留学をしました。約1年間、4つの家庭でのホームステイをした事で、インドの一般家庭の生活を体験できました。その中で日本とインドの社会の多くの違いを学びました。

私が留学したのはインドの東側にある、3大都市の中の一つでもあるコルカタから電車で8時間のところにあるジャールカンド州のランチという場所です。私が住んでいたところは治安が悪く、7ヶ月間も家から出られない日が続きました。イスラム教とヒンドゥー教との宗教対立による暴動が起こり、毎月のように死者が出たり、暴力団(テロリスト)が来る日はお店を運営することが出来ないのです。町の動きがストップしてしまう事もよくありました。日本ではありえない事に最初は戸惑い、無法な社会の在り方に怒りを覚えました。否定することはできませんでした。それはカルチャーショックとして受け止め、インドではインド流の生活のリズムに合わせて生活することに努めました。

インドの町には必ずエリアというものが存在

します。それは宗教エリアで、異色を放つのがスラムエリアでした。特に、劣悪な衛生環境の中で生活する人々の姿が印象的であり、強い衝撃を受けました。医学知識の不足によるポリオや破傷風、マラリアなどの感染が広まり、使えない手足で物乞いをし、今日という日を生きるか死ぬかの生活をしている人々がいます。両足を失った子供や捨てられた子供達は1日中ゴミを漁り、物を拾って食べ、泥水を飲み、お風呂にも入れず、夜は野良犬と同じ道路脇で寝ている現状を見たときは涙が出ました。また、浮浪生活者の中で女性が多いことも事実です。それは、労働力にならないからという理由で捨てられたり売られたりするためです。こういった問題はインドだけに限りません。生活困難な人々の生活向上を実現させるにあたって私はこれから勉強し、携わっていきたいと考えています。

また、インドにはたくさんの美しい場所があります。ラジャスタン州には有名なマハラジャのお城がたくさんあり、アグラには世界遺産のタージマハルがあります。カシミール地方には世界の天国とも呼ばれている場所があります。その地ではヒマラヤ山脈が美しく、ボリウッド映画の撮影でもよく使われるそうです。また人々が馬で移動していたり、荷物を運んでいたりと、湖ではシカーラという船が行きかっていたりと伝統を感じました。そんな平和的な背景とは反対に、パキスタンとインドで停戦中のカシミールの町にはマシンガンを持った沢山の陸軍の人々が警戒していて、とても悲しい気持ちになりました。恐れも心配も不安もなく安全に暮らせる場所を人々は望んでいるのではないのでしょうか。

数々の人との出会い、体験が経験となり、180度違った環境、言語、食べ物、習慣、見方、考え方、あらゆる波の中ですごしたこの1年間は私に大きな影響を与えました。

私を支えてくださったロータリアンの方々、友達、家族、先生方、インドの人々、そして父と母に感謝します。

本当にありがとうございました。

■点鐘：町田会長